

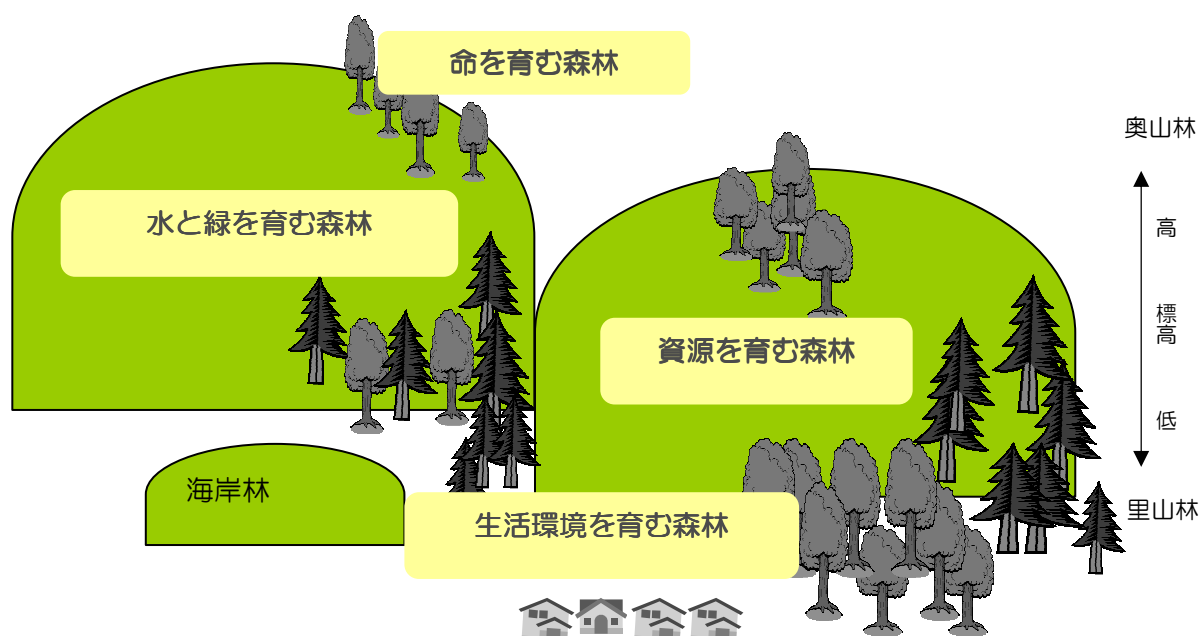
### 3 今、山形が取り組むべきこと

#### (1) 目指す森林と県民の関わりの姿

やまがたの森林を再生し、その機能を持続的に発揮させていくためには、「自然にダメージを与えることなく、じょうずに利活用する」ことを基本に、今後の森林づくりを進めていくことが重要です。また、先人が森林との長い関わりの中で培ってきた「森林と木の文化」を育み、未来に活かしていくことが大切です。

里山林は、気候が比較的穏やかで地形も急峻でなく樹木の成長が旺盛なことから、積極的な利活用がなされてきました。そして、里山固有の環境に依存する多くの生き物たちがそこで暮らしています。一方、奥山林は、気候が厳しく地形も比較的急峻で、こうした過酷な環境下では樹木の成長は遅く、環境変化にも敏感なため、緩やかな利用がなされてきました。

このような森林が置かれている自然条件や森林が果たしている役割、地域の森林文化などを十分に踏まえ、次のような「望ましい姿」の実現を目指していくことが必要です。



#### <生活環境を育む森林>

- ・ 集落や農地の背後に広がるナラに代表される里山林では、地域住民等が自然体験や健康増進、景観・動植物の保全など地域のニーズに応じた多様な森づくりを活発に行っている。また、身近な循環資源としての里山林の価値が見直され、萌芽更新等で生産される樹木を、きのこ栽培や農業資材、内装材、エネルギーなどに広く利用している。さらに、観光や温泉、グリーンツーリズム等と連携し、癒しや体験などを活用した「新たな森林の生業」が展開している。
- ・ 庄内海岸のクロマツ林など先人の労苦によって造られた森林は、地域住民等と協働して森林づくりを進める体制が定着し、健全な姿で地域の生活や産業を守っている。そして、こうした多様な森づくりを支える技術開発が産学官の連携で進められている。
- ・ 次代を担う子どもたちが里山林を利用して自然学習に取り組み、森林の価値や関わりの大切さを感じ、森のいのちと向き合うことで生きる力や助け合う心を育てている。

- また、本県 の象徴である「最上川」や「出羽丘陵」「奥羽山脈」などを介して地域を越えた交流が盛んに行われ、農山村地域は、多様な生業や交流の拠点として活気に満ち溢れている。
- 里山林は生き活きとした姿に再生し、県民の生活環境に豊かさと潤いをもたらすとともに、絶滅の危機にあった里山固有の生き物たちを育てている。県民一人ひとりが里山林との関わりを深め、県民と森林とが織りなす「新たな里山文化」が花開いている。



#### <資源を育む森林>

- かつて手入れが行き届かなかったスギ林では、森林の公益的機能と資源生産を両立させた森林管理が行われ、多様な世代の担い手たちが、整備された道路網と高性能林業機械を駆使して大径で高品質のスギ材を生産している。循環資源を作り出すことが彼らの誇りになっている。また、品種改良等によってスギ花粉症も過去のものとなっている。
- 衰退が危ぶまれた林業・木材産業は、木材資源の供給を持続的に行いながら、その過程で森林を健全に育成し、森林の多面的機能を支えている。
- 多分野の優れた技術と融合した木製品の開発が進み、木質資源を生活用品から大規模建築物に至る様々な分野で利用している。さらに、枝条や一度使用した木材を地域暖房の熱源や動力のエネルギー、堆肥等に再利用するシステムが確立している。
- 県民の理解と支援の下、地域で育まれた木材資源を余すことなく利用する「木のある暮らし」が定着し、木材資源を循環利用しながら森林を健全に育成する仕組みを築いている。



#### <水と緑を育む森林>

- 気象条件等から経営が放棄され荒廃していたスギ林は、公的関与や県民活動によって広葉樹と交じり合った針広混交林など多面的機能の発揮を重視した森林に生まれ変わっている。
- また、水源かん養や県土保全などに重要な役割を果たしている河川上流部等の森林は、保安林等での公的な森林整備をはじめ、企業や森林ボランティア等の森づくりによって、多様な樹種や年齢で構成された保水力の高い森林に再生している。
- 森林が育むミネラルに富んだ清らかな水は、私たち県民に一年通じて美味しい水をもたらすし、水田を潤し、地域の多様な産業を支えている。さらに、清らかな最上川の流れとなり、海に注いで豊かな日本海を育てている。
- 多彩な緑と地域文化が織りなす美しい景観と、洪水や土砂災害に強い安全安心な県土が広がっている。



### <命を育む森林>

- ・ 比較的標高の高いブナに代表される奥山林は、原則的に自然の遷移に委ねられており、鳥海山や月山、朝日・飯豊・吾妻・蔵王・神室の峰々など、山形ならではの雄大な自然景観を育んでいる。
- ・ 森林は稚樹から巨木に至る様々な世代の樹木で構成され、生態系の豊かさの指標といわれるイヌワシやツキノワグマをはじめとした多様な動植物が安定して生息している。
- ・ 人為的な要因による環境の変化が森林生態系に与える影響を農山村住民等と協働で常時監視する体制が整い、自然への影響を未然に防ぐ仕組みを築いている。
- ・ 私たちが暮らす地域社会と原生的な奥山林は、その間に位置する里山林が緩衝地帯となって緩やかに繋がり、野生動物との軋轢の少ない人と自然とが共生する豊かで美しい県土が広がっている。



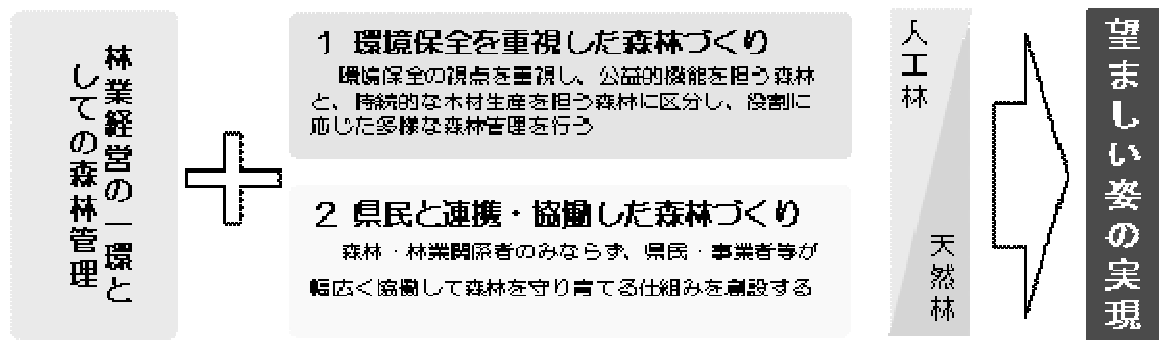
## (2) どのようにして森林を再生し活かすか（基本方向）

迫りくる「森林の危機」を克服し、山形の未来のために「望ましい姿」を実現するには、従来の森林・林業施策のみでは対応が困難であり、既存の枠組みを超えた「新たな森林づくりの仕組み」を構築する必要があります。

森林の多面的機能は、これまで林業活動によって維持されてきたものであり、林業経営支援や森林保全対策を柱とした既存の施策は、今後も引き続き推進していくことが必要です。

そのうえで、新たな森林づくりは、森林を県民共有の財産として位置づけ、その荒廃が県民生活に多大な影響を及ぼすことを認識し合い、県民一人ひとりが主体的に行動していかなければなりません。こうしたことから、これまでの枠組みに加えて、新たに「環境保全を重視した森林づくり」と「県民と連携・協働した森林づくり」を大きな柱として、取り組みを推進していくことが必要です。

### ● 新たな森林づくりの仕組み



こうした森林づくりの具体的な取り組みとして、次のような方向を重視した施策の展開が必要です。

#### 1 環境保全を重視した森林づくり

- ・ 木材生産には不利な人工林で公益上重要な森林については、公的管理によって公益的機能を発揮する森林に誘導する
- ・ 立地条件等から木材生産が期待できる人工林については、森林所有者の経営意欲を喚起し、経営の集約化や委託化を促進する
- ・ 県民みんなで、山形の木が循環する仕組みをつくり、持続的な森林経営を支援する


#### 2 県民と連携・協働した森林づくり

- ・ 地域住民やNPO、企業等が地域のニーズに応じて取り組む多様かつ自主的な森林づくりを広く支援し、森林を守り育てる地域力を高める
- ・ 河川の上流と下流、街と農山村など地域が広く連携して、川や海、生き物などを育む森林づくりを支援し、地域連携の森林づくりの輪を広げる
- ・ 観光、医療など他分野と連携して森林を利活用する県民や事業者の新たな取り組みを支援し、森林の多様な利活用を促進する

これらの取り組みとともに、県民が身近に森林と触れ合える環境づくりや、地域の森や木の文化を伝承する取り組みなどを進め、県民と森林の絆を深めていくことが大切です。

さらに、新たな森林づくりを着実に推進するためには、計画・実行・評価・改善（PDCAサイクル）の各ステージで県民の意思を反映できる仕組みや、森林づくりを総合的に支援する体制づくりが必要です。

● 新たな森林づくり施策の展開方向

区分	現状	目指す方向	基本方向	具体的な施策
人工林	管理放棄森林 (生態に不利な森林)	公益林 に転換	環境保全を重視した森林づくり	ア 公益的機能が高い森林への誘導
	管理放棄森林 (生態可能な森林)	持続的経営を推進		イ 環境に配慮した持続的な森林経営への支援
	管理された森林			ウ 不在村者等の経営意欲を高める活動の推進
天然林	管理放棄された 里山林	地域の管理 体制を構築	県民と連携・協働した森林づくり	エ 山形の木づかい運動の展開
				オ 木の香る街並みづくりへの支援
	管理されている 里山林	ア 県民の多様なアイデアによる森づくりの推進		
	奥山林	イ 地域の自主的な森林づくり活動支援		
				ウ 最上川がつなぐ森林づくりの推進
				エ 色彩豊かな森林の再生・保全
				オ みんなで生き物たちを育む森林づくりの推進
				カ 森林を活用した新産業展開への支援
				キ 森の見守り隊の発足
		県民と森林 との強い絆	絆を 深める	ア 山形独自の森林環境教育の推進
				イ 県民全てが森林に触れ合える環境づくり
				ウ やまがたの森や木の文化発掘・伝承
				
<b>新たな森林づくりを推進・支援する仕組みづくり</b>				

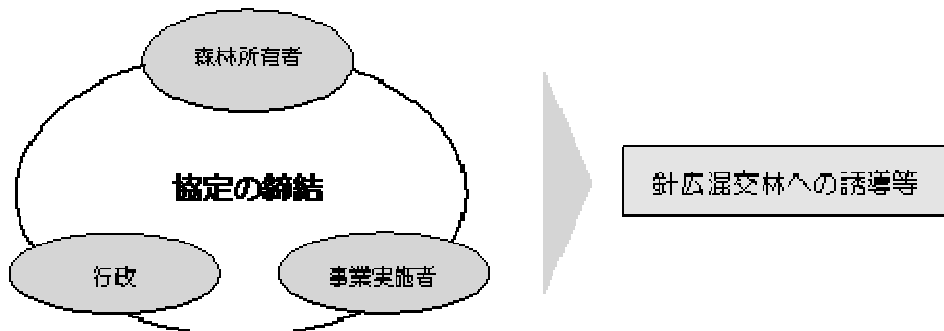
### (3) 新たな森林づくり施策の展開

森林づくり施策の展開方向を踏まえ、新たに次のような施策を推進すべきと考えます。

#### ① 環境保全を重視した森林づくり

##### ア 公益的機能が高い森林への誘導

標高が高い所や道路から離れている所など、木材生産には条件が悪く、手入れされずに荒廃が進む人工林については、協定の締結等による公的な管理を強化し、針広混交林など公益的機能の高い森林に誘導する。



##### イ 環境に配慮した持続的な森林経営への支援

自然環境との調和を図りながら森林を経営するシステムを第三者機関が承認する森林認証の取得や森林を管理する専門的な人材の育成、環境配慮型の技術開発等を支援し、環境に配慮した持続的な森林経営を促進する。



##### 森林認証システム

自然環境と持続的な木材生産を両立し健全な森林育成を保證するシステム



##### ウ 不在村者等の経営意欲を高める活動の推進

不在村の森林所有者に対して、森のカルテを提示して経営意欲を喚起し、経営の集約化や委託化などにつなげる仕組みを創設する。

##### エ 山形の木づかい運動の展開

山形の木を使う意義を県民に広くPRし、消費を促すとともに、県民のアイデアや企画による「木づかい運動」及び事業者の先進的な木製品等の開発を支援し、新たな用途開拓や利用を促進する。



## オ 木の香る街並みづくりへの支援

学校や公民館、道路などに山形の木を有効利用する「木の香る公共施設や街並みづくり」を支援し、森を元気にし、街を潤す取り組みを推進する。



## ② 県民と連携・協働した森林づくり

### ア 県民の多様なアイデアによる森づくりの推進

県民の豊かな発想による森林の育成や利活用のアイデアを広く募集し、多様かつ自主的な活動をサポートする体制を強化する。



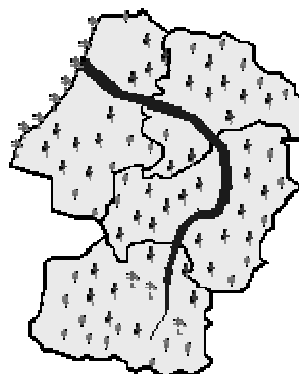
### イ 地域の自主的な森林づくり活動支援

地域住民や NPO、事業者等が行う森林づくり活動の立ち上げや活動の中核を担う人材の育成等を支援し、県民との協働の森林づくりの輪を広げる。



### ウ 最上川がつなぐ森林づくりの推進

最上川など河川を清流化し、豊かな飲料水や海・川の生き物などを育む水源地域や河川周辺等での森林づくりを、上・下流の住民・団体等が連携して行えるよう支援する。



## 工 色彩豊かな森林の再生・保全

地域の特徴を活かした森林づくりや、地域固有の課題に対応した森林づくりを市町村等がきめ細かに展開できる制度を創設する。



## オ みんなで生き物たちを育む森林づくりの推進

住民や NPO、学校、事業所、専門家等が連携して行う希少生物の保全など自然を守り、野生動物との軋轢を緩衝する森林づくりを支援する。



## カ 森林を活用した新産業展開への支援

観光産業や医療・福祉分野等との連携を視野に、里山林等の資源を活用した新たな産業の創出を目指す県民や事業者等を支援する。



## キ 森の見守り隊の発足

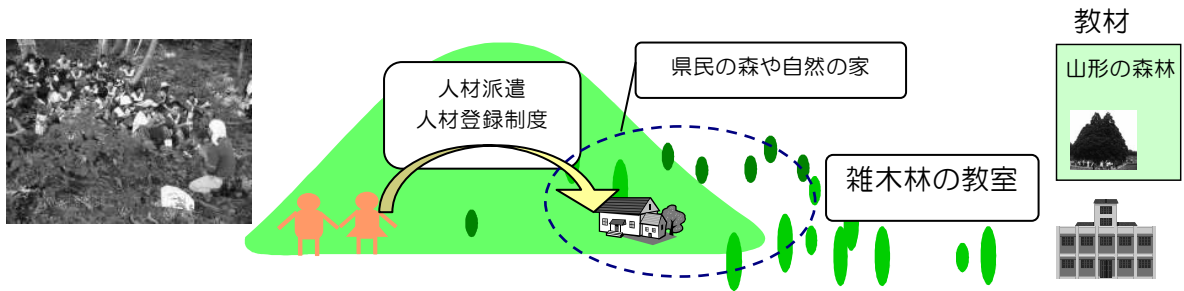
森林の荒廃状況や違法行為などを常に監視し、早期対応につなげる県民参加型の巡回体制を整備する。



### ③ 県民と森林との絆を深める環境づくり

#### ア 山形独自の森林環境教育の推進

森林環境学習を推進するための人材登録制度の創設や、学校教育等で活用できる「山形の森や木に関する教材」の作成・配布、少年自然の家・NPO等との協力体制の強化などにより、県民が森林への理解を深める環境づくりを進める。



#### イ 県民全てが森林に触れあえる環境づくり

県民の森などの触れ合い施設におけるソフト・ハード両面でのユニバーサル・デザイン化を図り、県民全てが森と触れあえる環境整備を進める。

#### ウ やまがたの森や木の文化発掘・伝承

地域が受け継いできた森林や木の文化を広く紹介する冊子や、森づくりや木づかいの達人を登録するデータベースを整備し、地域や学校等での活用を支援するとともに、自然と共生する文化を培ってきた農山村地域の知恵や技術、人材を活かした交流活動等を支援する。



## (4) 森林づくりを支える仕組みづくり

### ① 新たな推進体制の構築

県民の理解と合意を得ながら、森林づくりを効果的に実践していくためには、県民にわかりやすい形で情報を公開し、透明性を確保することが重要です。さらに、事業を評価・改善し、より実効性の高いものにしていく必要があります。

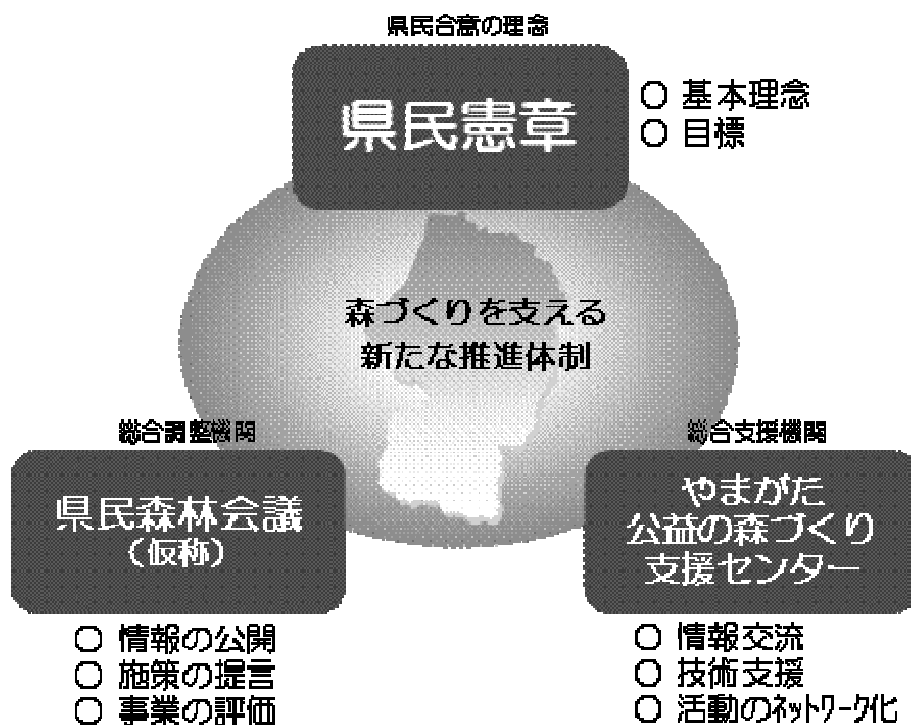
そのためには、より県民に近い立場で、新たな森林づくり施策を総合的に調整する機能を持った第三者機関を設置することが有効です。機関は、県民各層の代表により運営し「県民会議（仮称）」等の名称を付して、全ての県民の機関であることをアピールしていくことが重要です。

また、森林・林業関係者と県民、NPO、企業等が協働した森林づくりを展開していくためには、森林づくりを総合的に支援する機能がますます重要になってきます。

現在「公益の森づくり支援センター」が設置されており、森林・林業関係者と県民との情報交流等を行っています。今後は、これまでの役割に加えて、担い手への技術支援、地域活動のネットワーク化など、森林づくり活動への幅広い支援が可能となるようセンターの機能を強化することが必要です。

こうした調整・支援機関に加えて、県民の森林づくりへの参画意識を盛り上げるためには、基本理念や目標を示した県民憲章等を県民とともに定めることが有効です。

このような、総合的な調整・支援機関と、県民の合意による憲章の制定などを森林づくりを進める推進体制として構築する必要があります。



## ② 新たな財源の確保

森林は県民共有の財産であり、機能低下による弊害が深刻な問題となる前に歯止めをかけ、健全な姿で確実に未来の世代に引き継いでいかねばなりません。

そのためには、新たな施策を推進する体制の構築とともに、財政的な裏付けが不可欠です。既存事業については一層の重点化や効率化を進め、さらに森林所有者の自助努力を促すことが必要です。

しかし、こうした努力のみで危機を克服することは困難です。

荒廃が進む森林の再生に早急に取り組み、望ましい姿の実現を目指すためには、既存施策を着実に進める一方で、新たな森林づくり施策を推進していくための財源を確保する必要があります。

財源を確保する手段としては、負担金、租税など様々な手段が考えられますが、森林の恩恵は県民すべてに及ぶことから、財源の確保についても、県民が負担を分かち合うことを基本に考えていくべきです。

今後は、それぞれの手段の特徴を整理・検討しつつ、県民の理解と協力のもと、新たな財源確保の仕組みを早急に構築する必要があります。

## おわりに

---

今回提言する森林づくりは、県民一人ひとりが森林の価値を認識し、森林づくりへの参加や木の循環への支援、新たな財源の拠出などにより、県民みんなの力でやまがたの森林を守り育てていくことをねらいとしています。

森林の荒廃が取り返しのつかない事態となる前に、こうした森林づくりの仕組みを早急に構築し、森林を健全な姿で将来の世代に引き継いで行くことが、今を生きる私たちの責務であると考えます。

いにしえより、山形の地に根を張り、清らかな最上川を育ててきた森林  
県民すべてに、安全で快適な生活環境や山の恵みをもたらしてきた森林  
森に抱かれて、木の文化や自然を愛する心を育ててきた私たち山形県民

私たち一人ひとりの森に対する思いと自発的な行動が、自然と共生する「100年後にも誇れるやまがた」を実現する一歩となるのです。